

# 学校規模の適正化を進めます

平成17年(2005年)11月

吹田市教育委員会

## 1 学校規模適正化の検討経過

吹田市では、小学校は昭和56年(1981年)の36,406人、中学校では昭和61年(1986年)の17,167人をピークとして、その後児童生徒数が減少しつづけ(最近の動向では若干の児童生徒数の回復がみられます。)今年度5月1日現在小学校の児童数は20,487人、中学校の生徒数は8,271人となっています。そのため、学校規模は全体として小規模校化が進んでいますが、一部の地域では住宅開発などにより大規模校化している学校もあります。このように、学校規模が非常に不均衡な状況になっていることから、市教育委員会では平成12年度(2000年度)に学識経験者や学校・PTA・地域関係者・公募市民などによる「吹田市立学校適正規模検討会議」を設置して、適正規模の考え方や今後の適正化の方向性などについて検討していただきました。その検討会議の検討のまとめが平成13年(2001年)3月28日に意見書として教育委員会に提出されました。

### 【意見書の主な内容】

#### (1) 適正規模の考え方について

- ・ 小学校の適正規模 12学級～24学級  
許容範囲 7学級～11学級の学校で特筆すべき教育が期待できる場合
- ・ 中学校の適正規模 12学級～18学級  
許容範囲 11学級以下の学校で特筆すべき教育が期待できる場合  
19～21学級

#### (2) 小規模校化の適正化について

- ・ 小規模校については、適正規模を下回る場合でも、ある程度の規模までは工夫によりデメリットを補うことも可能である。そのため、個に応じた教育の推進や地域に開かれた学校づくりによる人間関係の活性化などの特色ある教育が行われるように促し、その状況を見極めながら適正化を検討する。
- ・ 許容範囲をも下回る学校については、集団生活の良さを生かすにくいことや、集団生活を通して培われる様々な資質や能力の向上が期待しにくいことから、早期に適正化に取り組む必要があり、個別の事情等を充分考慮しながら校区の調整や学校統合などの手段によって早急に許容規模・適正規模が維持されるようにすべきである。

教育委員会ではこの意見書を受けて、教育委員会内部にプロジェクトチームを設置して適正規模の基本的な考え方と具体的な適正化方策を検討し、平成14年(2002年)3月4日に「吹田市立小・中学校の適正規模についての基本的な考え方」と「吹田市立小・中学校の規模適正化第1期実施計画」をまとめ、平成15年(2003年)4月1日より、大規模校である千里新田小学校、佐井寺小学校、佐井寺中学校の校区変更を実施し、また小規模校の竹見台小学校と南竹見台小学校を統合して千里たけみ小学校としました。

さらに、平成16年(2004年)2月に「吹田市立小・中学校の規模適正化第2期実施計画(案)」を策定し、子ども達にとってより良い教育条件を整備するという基本的な考えのもとに、「学校規模適正化第2期実施計画検討委員会」を設置し、青山台小学校の適正化にむけての協議を進めてまいりました。

## 2 吹田市立小・中学校規模適正化第2期実施計画(案)

### (1) 平成16年度の経過

平成16年(2004年)に策定いたしました、「吹田市立小・中学校の規模適正化第2期実施計画(案)」(以下「原案」という)について、「学校規模適正化第2期実施計画検討委員会」を9回開催し検討を重ねてまいりましたが、委員の総意による意見具申には至らず、各委員の個人意見の表明という「報告書」という形での協議内容の報告をいただきました。

教育委員会といたしましては、この「報告書」の内容を真摯に受け止め、平成17年(2005年)度にはいり、各関係者の意見をお聞きし、「原案」について内部で再度検討を重ねた結果、北千里小学校に通う児童を分断しないでほしいという要望等を考慮して、以下のとおり「代替案」を策定いたしました。

### (2) 第2期実施計画(案)

#### ・原案

校区変更による適正化事業として、平成17年(2004年)4月より、北千里小学校区に指定されている青山台1丁目全域を青山台小学校区に変更します。

また、統合を実施する事業として、平成17年(2004年)4月より、北千里小学校に指定されている古江台3丁目全域を、古江台小学校区に変更し、北千里小学校を古江台小学校に統合します。あわせて青山台中学校区である古江台3丁目全域を古江台中学校区に変更します。

#### ・代替案

校区変更による適正化事業として、平成19年(2007年)4月を目標に、北千里小学校区に指定されている青山台1丁目全域を青山台小学校区に変更します。

また、統合を実施する事業として、平成19年(2007年)4月を目標に、北千

里小学校に指定されている古江台3丁目全域を、古江台小学校区に変更し、北千里小学校を古江台小学校に統合します。あわせて青山台中学校区である古江台3丁目全域を古江台中学校区に変更します。

ただし、以下の経過措置を適用します。

古江台3丁目の在校生（平成19年（2007年）度の新2年生から6年生）については、卒業時まで青山台小学校を選択することも可能とします。

兄弟姉妹関係がある新1年生が、校区変更によって兄・姉と別の小学校に通学することになる場合は、兄・姉と同じ小学校に通学することも可能とします。

平成19年（2007年）度以降の中学新1年生については、それぞれの校区の中学校に通学することとします。（古江台3丁目に在住の場合、青山台小学校に通学していても、古江台中学校に通学することとします。）



### 3 適正化を進めるにあたっての対応策

#### (1) 各小学校間の交流の促進

児童の環境の変化に対する不安を解消し安心して通学できるよう、北千里、青山台、古江台各小学校合同の連絡会議等を設置し、さまざまな学校行事等を通じての学校間交流を進めます。具体的な交流事業については3小学校でまとまり次第平成18年(2006年)度を実施します。

#### (2) 教室等施設の整備

青山台小学校、古江台小学校の普通教室や給食施設等の整備を進め、受け入れ体制を整えます。

#### (3) 児童に対する心のケア

環境の変化に対する不安に対処するため、定期的な相談員の派遣等、児童が気軽に相談できる体制づくりを進めます。

#### (4) 通学路の安全対策

通学路については安全を第一に考え、保護者等のご意見、ご要望をお聞きする中で必要な対策を検討します。

### 4 適正化実施後の教育について

青山台中学校ブロックでは府の「小・中学校間いきいきスクール」実施校として、また古江台中学校ブロックでは府の「確かな学力向上のための学校づくり」推進事業の研究指定校として取り組んでいる実績を基に、各校独自の研究成果を加え、より緊密な小中連携を図り、子ども達に確かな学力を身につけさせ、友達と生き生きと活動する学校づくりを推進します。

#### (1) 小中連携、小々連携を通して、1中学校と2小学校が緊密につながり合うトライアングルを構築し、相互の機能を効果的に発揮しながら、継続性のある指導のもとに教育活動を推進します。

緊密な連携をコーディネートする教員の配置を視野に入れ、小中合同の研究組織を立ち上げ、研究の推進及び研修会を実施します。

小・中9年間を見通したカリキュラムの編成に取り組みます。さらに、基礎基本の定着を図ることを念頭に少人数指導等の指導方法のあり方について研究します。

きめ細かな授業、専門性を活かした指導を可能にするため、教科担任制や小中の教員の授業交流を図ります。

小小、小中の児童生徒の行事交流やクラブ活動等の交流を進めます。

(2) 現行の取組の充実・深化を図り、特色ある学校づくりを推進します。

青山台中学校ブロック

「小・中学校間いきいきスクール」の取組として、小中合同で継続性のある指導を行うための研修会を実施します。

英語活動を中心とした国際理解教育を推進します。

古江台中学校ブロック

古江台中学校ブロック全体で学力実態調査の分析を行い、児童・生徒の確かな学力の定着を図る取組を推進します。

古江台中学校でソーラーシステムを取り入れたピオトープづくりを進めます。

5 対象となる学校の児童・生徒数の推移

・青山台小学校

現行

(児童数：人、学級数：クラス)

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
児童数	195	193	193	186	181	178	166
学級数	7	8	7	6	6	6	6

原案

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
児童数		291	283	276	287	290	287
学級数		12	12	12	11	11	11

代替案

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
児童数			283～526	276～485	287～470	290～431	287～386
学級数			12～17	12～15	11～15	11～14	11～13

代替案の推計の最大は、古江台3丁目の平成19年度の2年生以上の児童とその兄弟姉妹関係がある新1年生が全員青山台小学校に通学した場合。

・古江台小学校

現行

(児童数：人、学級数：クラス)

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
児童数	386	403	404	409	393	369	344
学級数	12	12	13	13	12	12	12

原案

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
児童数		666	662	659	654	609	576
学級数		20	19	19	19	18	18

代替案

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
児童数			419～662	450～659	471～654	468～609	477～576
学級数			13～19	14～19	15～19	15～18	16～18

代替案の推計の最大は、古江台3丁目の平成19年度の2年生以上の児童とその兄弟姉妹関係がある新1年生が全員古江台小学校に通学した場合。

・北千里小学校

現行

(児童数：人、学級数：クラス)

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
児童数	337	361	348	340	367	352	353
学級数	12	13	13	12	13	13	12

原案

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
児童数		0	0	0	0	0	0
学級数		0	0	0	0	0	0

代替案

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
児童数		361	0	0	0	0	0
学級数		13	0	0	0	0	0

・青山台中学校

現行

(児童数：人、学級数：クラス)

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
生徒数	452	525	614	713	723	725	708
学級数	12	14	17	20	20	20	19

原案

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
生徒数		493	544	600	609	604	586
学級数		13	15	17	17	16	15

代替案

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
生徒数			576	632	609	604	586
学級数			16	18	17	16	15

・古江台中学校

現行

(児童数：人、学級数：クラス)

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
生徒数	285	323	362	392	414	425	455
学級数	9	10	11	12	12	12	12

原案

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
生徒数		355	432	505	528	546	577
学級数		11	13	15	15	15	16

代替案

	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度
生徒数			400	473	528	546	577
学級数			12	14	15	15	16

(各年5月1日の推計、ただし平成17年度は5月1日現在の実数です。また、児童・生徒数、学級数には養護学級は含んでおりません。)